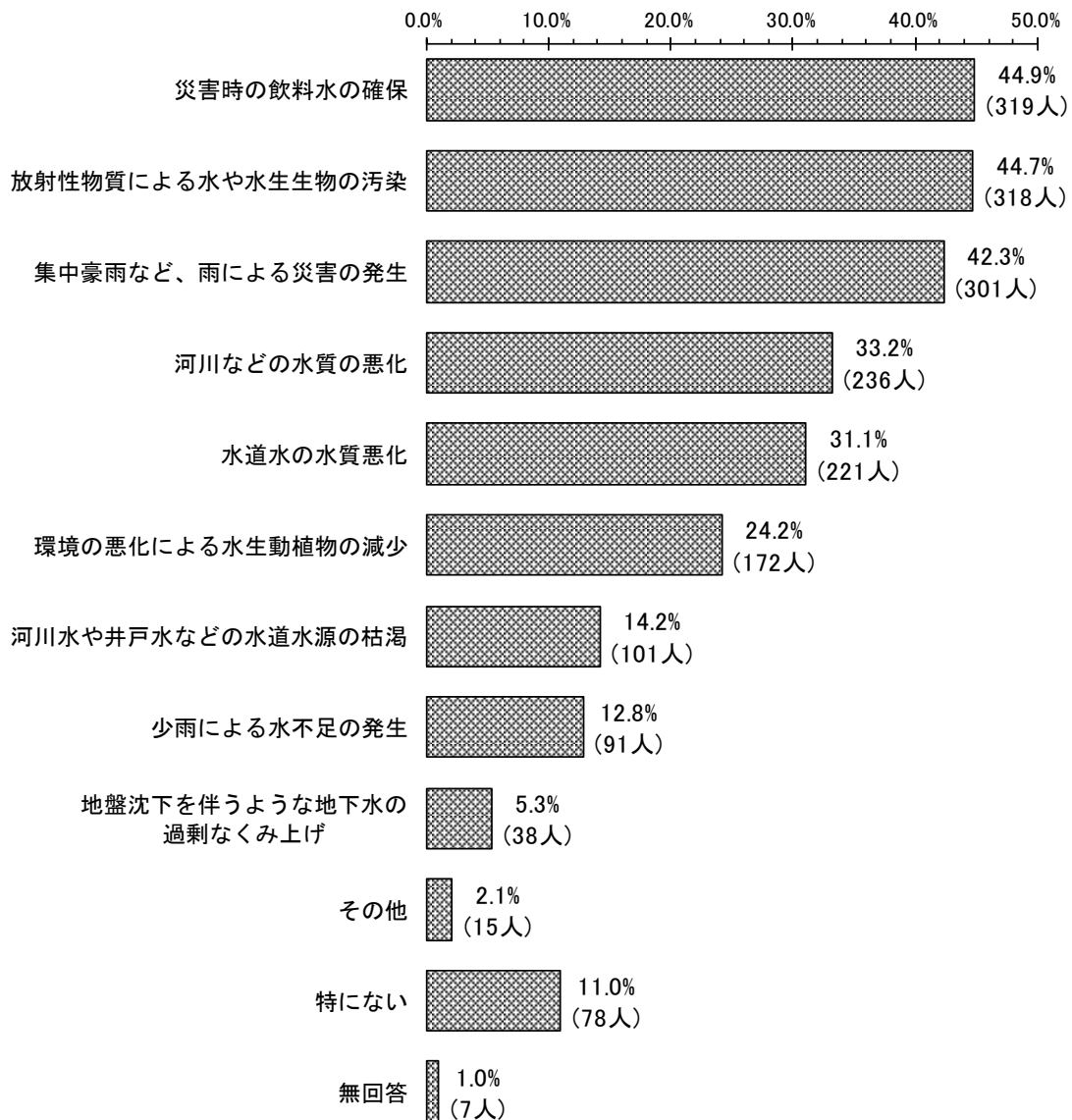


4. 水に関する意識について

(1) 水についての心配や不安

問11 あなたは、水についての心配や不安を感じたことはありますか。
あてまるものにもいくつか○をつけてください。(複数回答可)

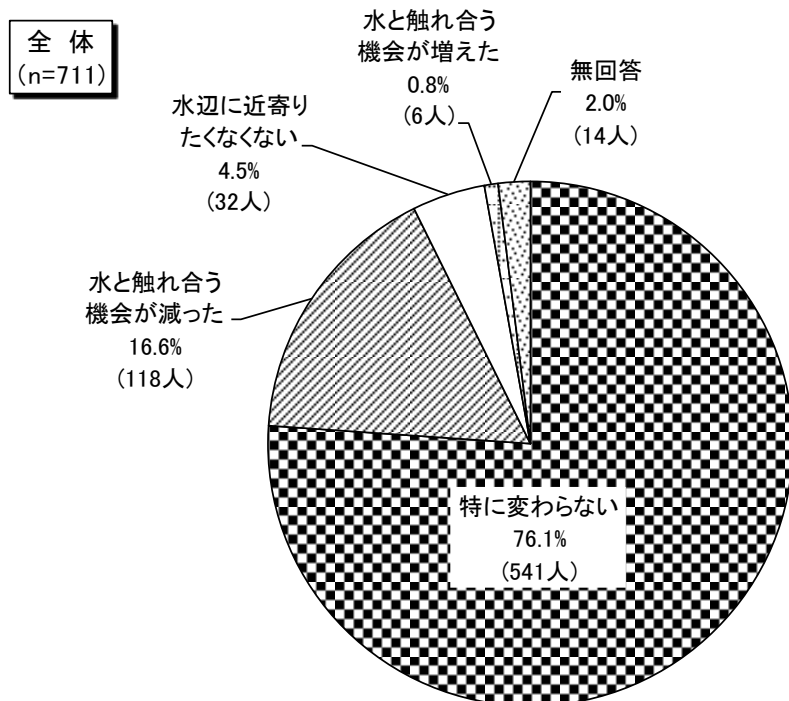
全体
(n=711)



水について感じたことがある心配や不安は、「災害時の飲料水の確保」(44.9%)と「放射性物質による水や水生生物の汚染」(44.7%)が多く、4割強となっている。以下、「集中豪雨など、雨による災害の発生」(42.3%)が4割台、「河川などの水質の悪化」(33.2%)と「水道水の水質悪化」(31.1%)が3割台、「環境の悪化による水生動植物の減少」(24.2%)が2割台、「河川水や井戸水などの水道水源の枯渇」(14.2%)が1割台となっている。

(2) 水との触れ合い方の変化

問 12 あなたは、震災により、水との触れ合い方に変化はありましたか。
(水遊びや魚釣りなどを含む) あてはまるもの1つに○をつけてください。

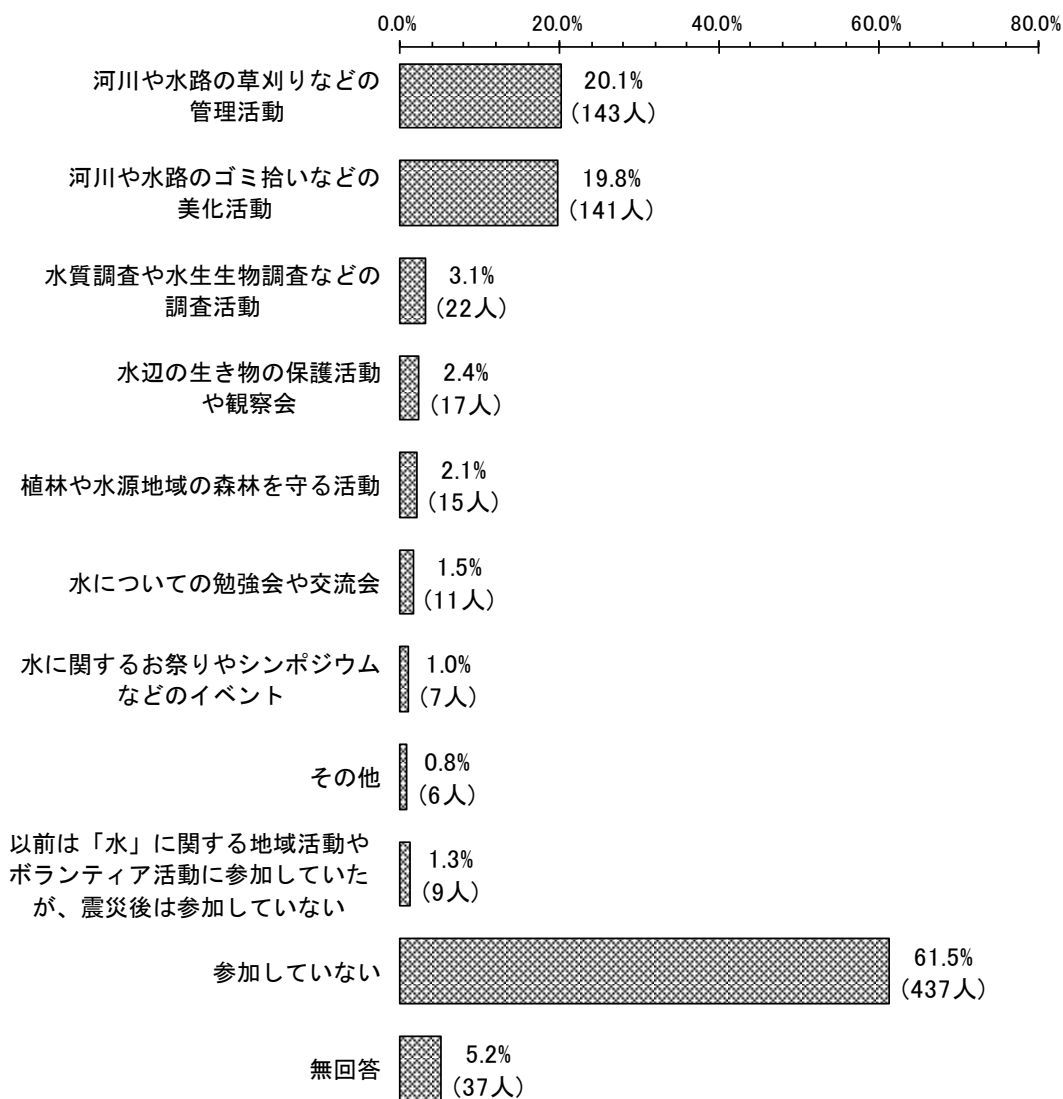


水との触れ合い方は「特に変わらない」(76.1%)と回答した人が最も多く、8割弱となっている。「水と触れ合う機会が減った」が16.6%、「水辺に近寄りたくない」が4.5%、「水と触れ合う機会が増えた」が0.8%となっている。

(3) 「水」に関わる活動への参加状況

問13 あなたは、震災後、「水」に関わる地域活動やボランティア活動に参加していますか。
あてはまるものいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=711)

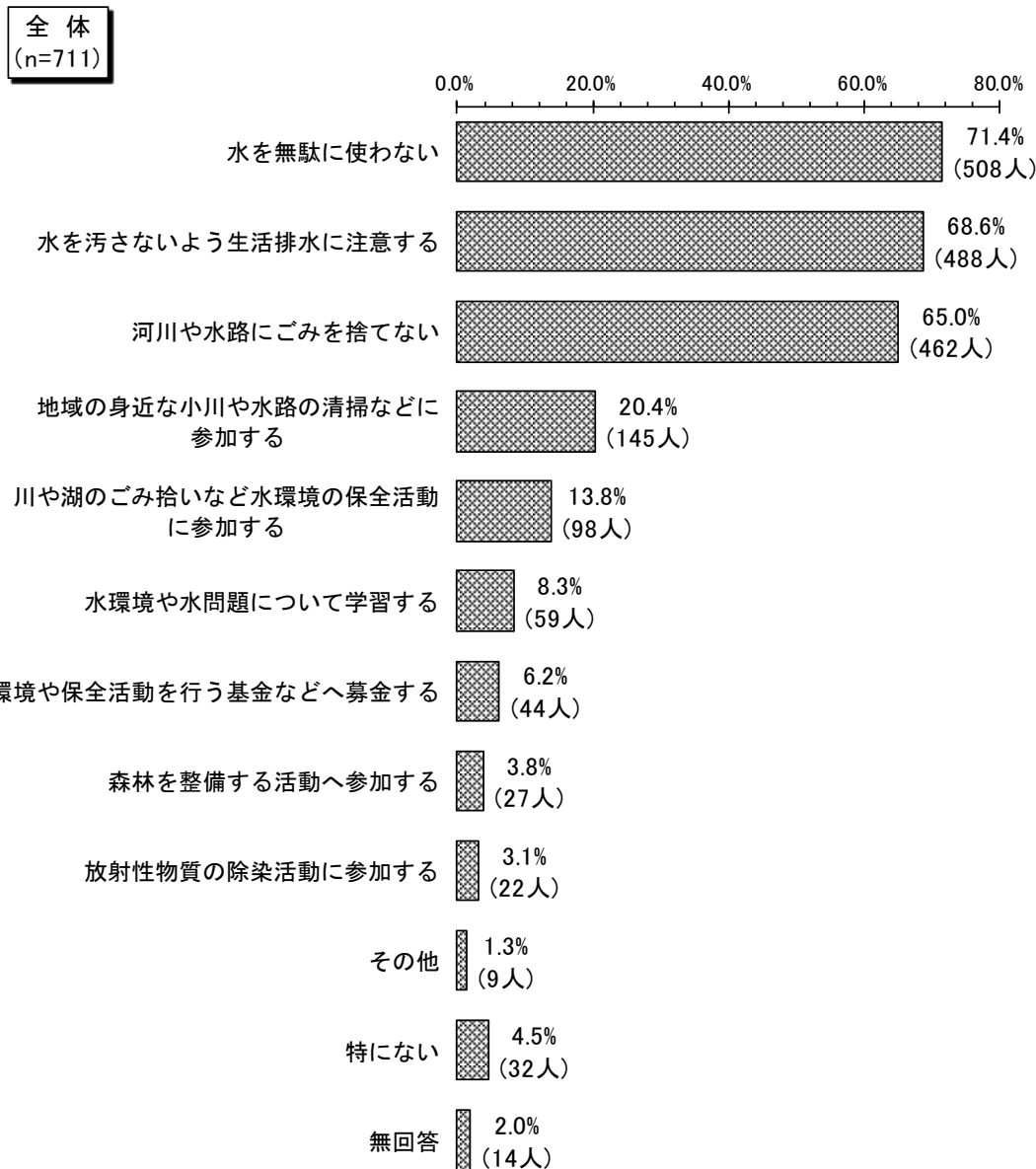


「水」に関わる活動への参加状況は「参加していない」(61.5%)が最も多く、約6割となっている。参加している活動は、「河川や水路の草刈りなどの管理活動」(20.1%)と「河川や水路のゴミ拾いなどの美化活動」(19.8%)が2割前後となっている。

(4) 「水」を利用していくために取り組みたいこと

問 14 あなたは、将来にわたって水を利用していくために、自分で取り組みたいと
思っていることがありますか。

あてはまるものいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

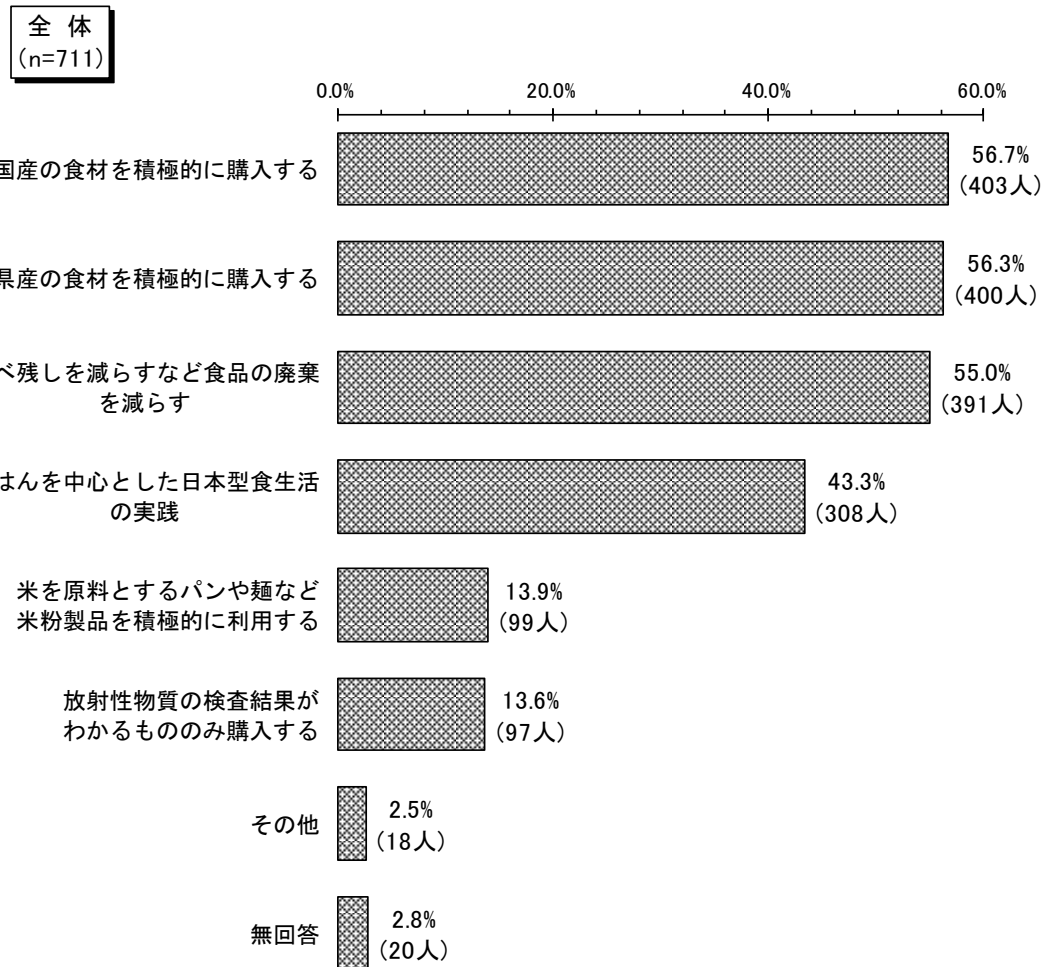


「水」を利用していくために取り組みたいことは、「水を無駄に使わない」(71.4%)が最も多く、約7割になっている。以下、「水を汚さないよう生活排水に注意する」(68.6%)、「河川や水路にごみを捨てない」(65.0%)が6割台、「地域の身近な小川や水路の清掃などに参加する」(20.4%)、「川や湖のごみ拾いなど水環境の保全活動に参加する」(13.8%)、「水環境や水問題について学習する」(8.3%)、「水環境や保全活動を行う基金などへ募金する」(6.2%)となっている。

5. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと

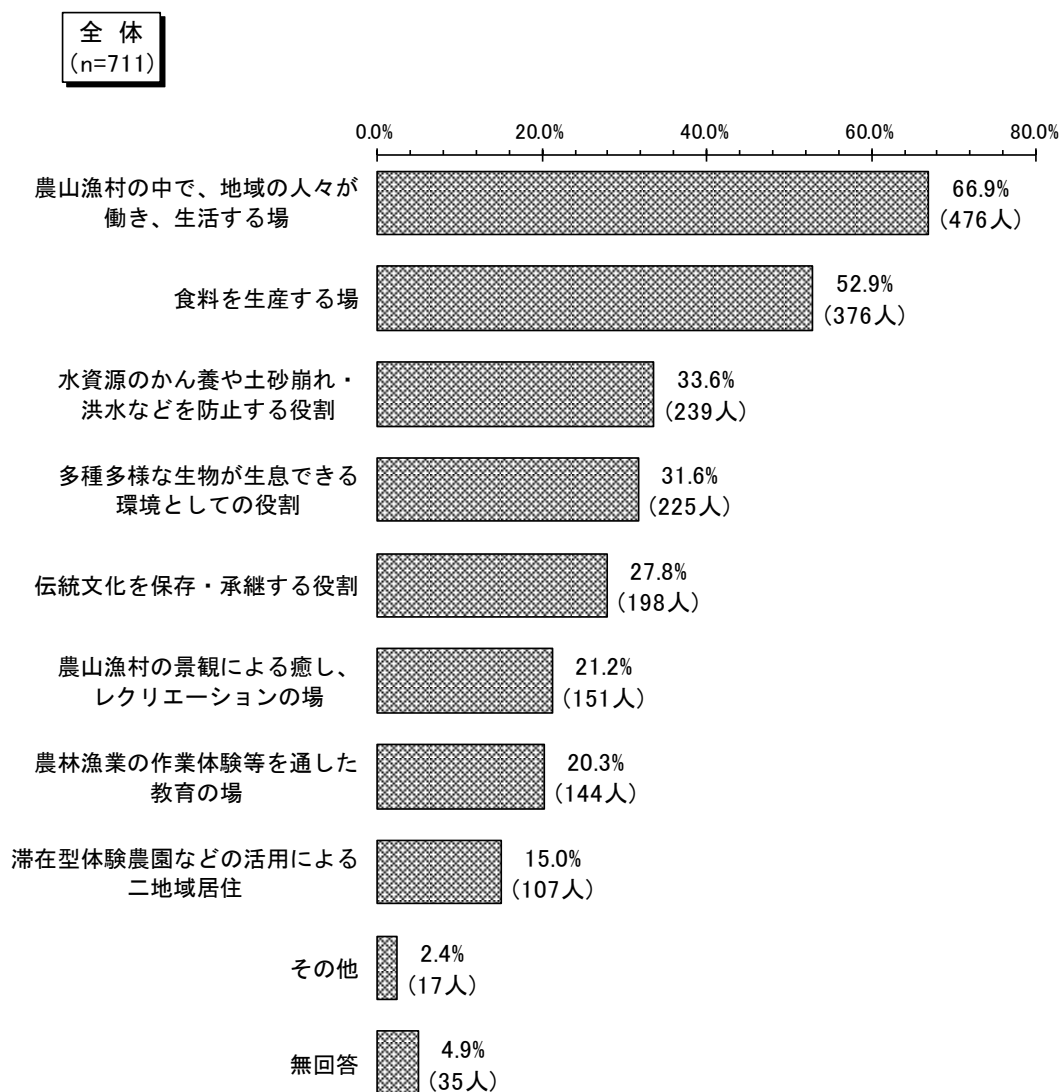
問 15 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。
あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



震災後、農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいことは、「国産の食材を積極的に購入する」(56.7%)と「県産の食材を積極的に購入する」(56.3%)が多く、6割弱となっている。その他、「食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす」(55.0%)が5割台、「ごはんを中心とした日本型食生活の実践」(43.3%)が4割台となっている。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問 16 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

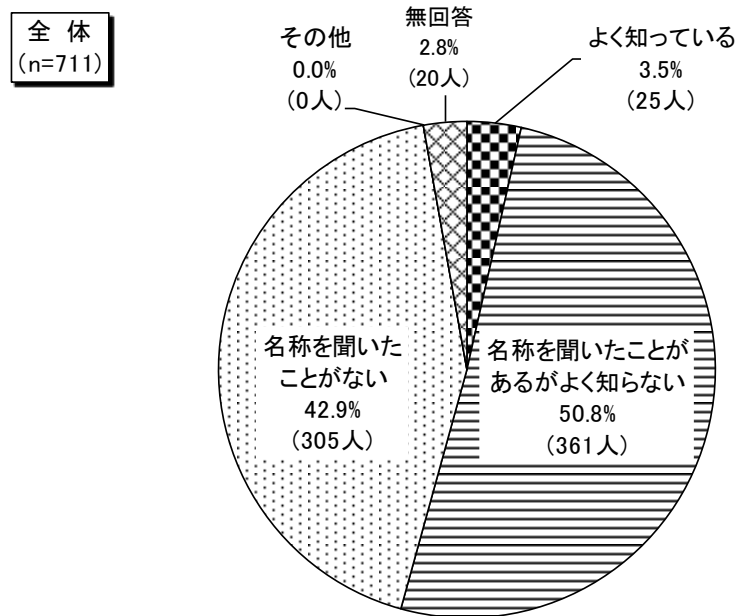


農山漁村の役割として期待することは、「農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場」(66.9%)が最も多く6割を超えている。以下、「食料を生産する場」(52.9%)が5割台、「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(33.6%)と「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(31.6%)が3割台となっている。「伝統文化を保存・承継する役割」(27.8%)、「農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場」(21.2%)と「農林漁業の作業体験等を通じた教育の場」(20.3%)が2割台となっている。

6. チャレンジふくしま県民活動について

(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

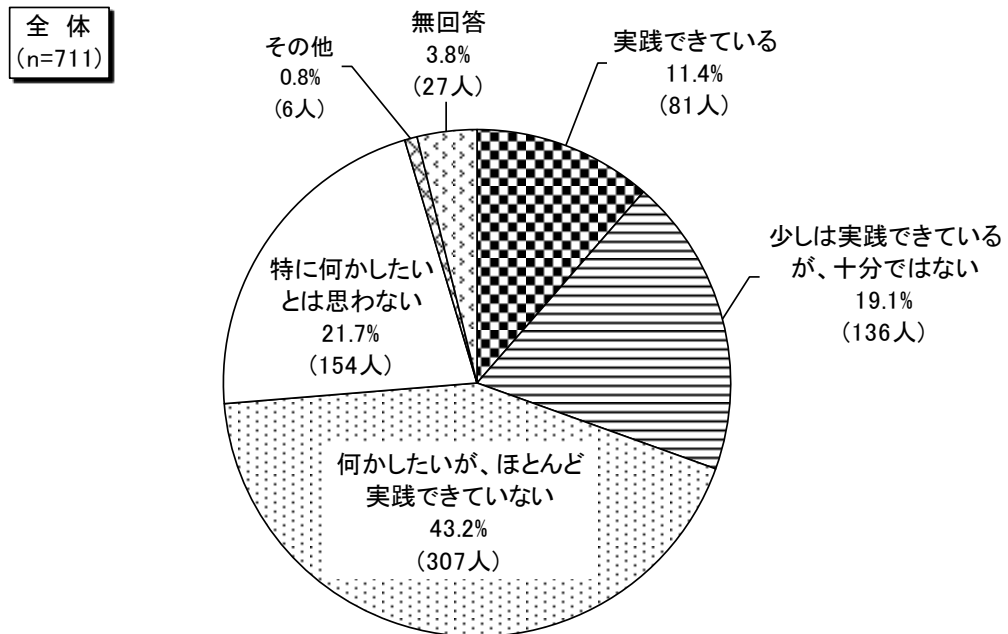
問 17 チャレンジふくしま県民運動とは、何をするものか知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「名称を聞いたことがあるがよく知らない」(50.8%)が約5割となっている。「名称を聞いたことがない」が42.9%、「よく知っている」が3.5%となっている。

(2) 心身の健康づくりに対する意識と実践

問 18 運動や文化活動など、心身の健康づくりに対する意識と実践について、最も当てはまるもの1つに○をつけてください。



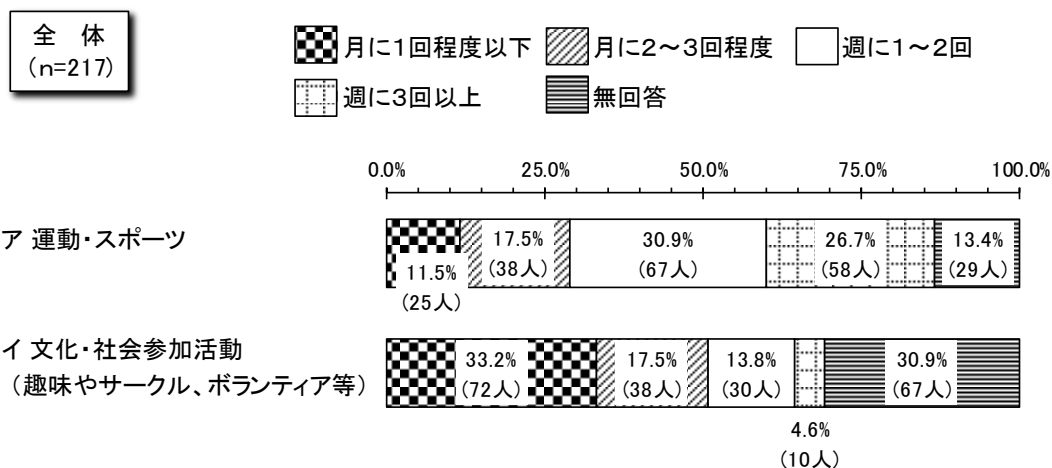
心身の健康づくりに対する意識と実践については、「何かしたいが、ほとんど実践できていない」(43.2%) が最も多く、4割強となっている。以下、「少しは実践できているが、十分ではない」(19.1%)、「実践できている」(11.4%) となっている。

一方、「特に何かしたいとは思わない」が21.7%となっている。

(3) 心身の健康づくりの頻度

(問 18 で、1 または 2 とお答えの方にお尋ねします。)

問 18-1 あなたが実践している心身の健康づくりについて、その頻度を分野別に選んでください。



心身の健康づくりの頻度について（ア運動・スポーツ）は、「週に1~2回」（30.9%）が最も多く、約3割となっている。以下、「週に3回以上」（26.7%）、「月に2~3回」（17.5%）、「月に1回程度以下」（11.5%）となっている。

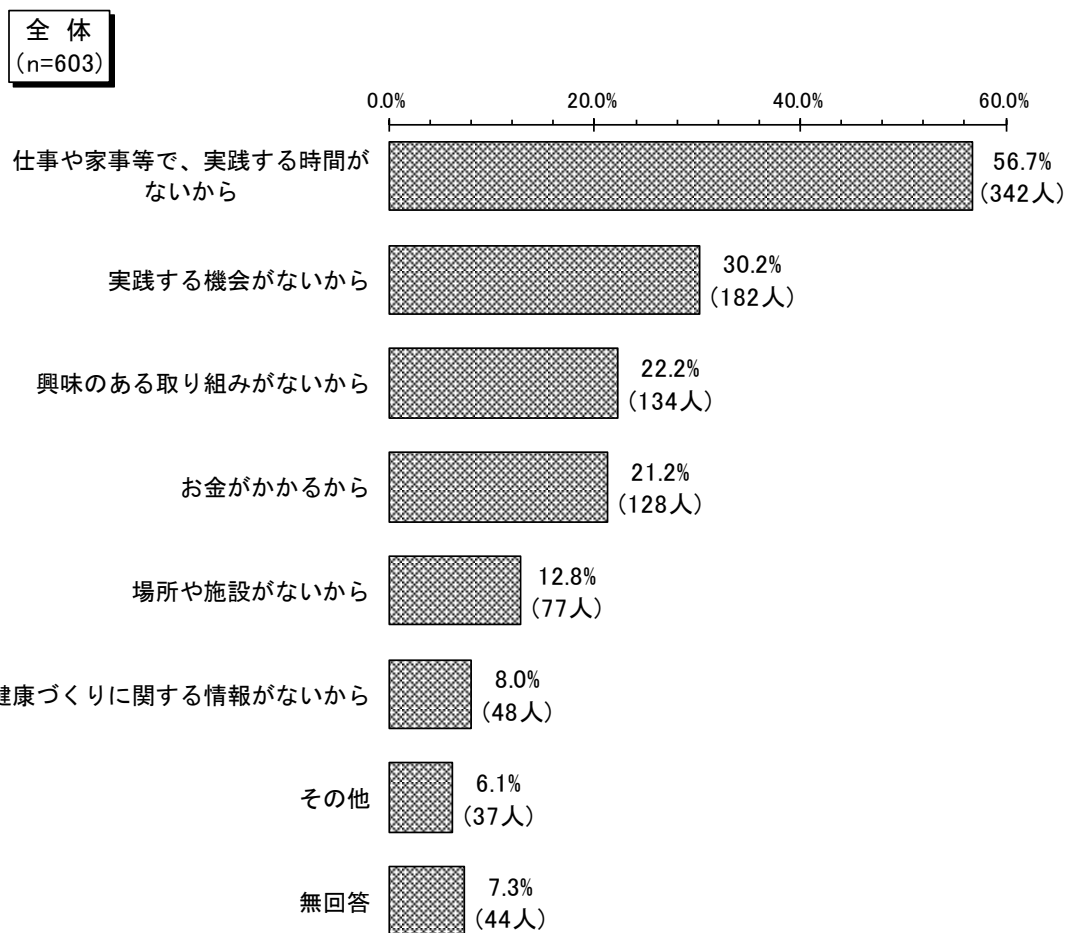
心身の健康づくりの頻度について（イ文化・社会参加活動）は、「月に1回程度以下」（33.2%）が最も多く、3割強となっている。以下、「月に2~3回」（17.5%）、「週に1~2回」（13.8%）、「週に3回以上」（4.6%）となっている。

(4) 健康づくりが十分に実践できない理由

(問 18 で、2、3、4 または 5 とお答えの方にお尋ねします。)

問 18-2 健康づくりが十分に実践できない理由について選んでください。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



健康づくりが十分に実践できない理由については、「仕事や家事等で、実践する時間がないから」(56.7%)の割合が最も高く、6割弱となっている。以下、「実践する機会がないから」(30.2%)が約3割、「興味のある取り組みがないから」(22.2%)と「お金がかかるから」(21.2%)が2割台となっている。